



各 位

平成17年11月18日

会 社 名 日本精密株式会社  
 JASDAQ・コード番号:7771  
 代表者名 代表取締役会長  
 町 幸頼  
 問合せ先 管理グループリーダー  
 元川 博文  
 T E L (048)225-5311

## 特別損失の計上及び平成18年3月期中間期及び通期業績予想と配当予想の修正について

この度、当社において、子会社等の業績状況等を勘案し、下記のとおり子会社等に係る特別損失を計上することといたしましたので、その概要をお知らせするとともに、平成17年5月27日に公表した業績予想と配当予想につき、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

### 1. 特別損失の内容

個別

- (1) 当社の子会社(連結子会社)であるニッセイベトナムは前期策定の事業計画を遂行中ではありますが、当中間期において実績と当該計画との乖離が生じたため、同社への投資額と同社の純資産額との差額927百万円を投資損失引当金として特別損失に計上いたします。
- (2) 当社の外注取引先に対する債権への貸倒引当金195百万円を設定して、特別損失に計上いたします。

連結

上記の個別(2)と同様です。

### 2. 平成18年3月期 中間期業績予想数値の修正(平成17年4月1日～平成17年9月30日)

#### (1) 個別業績

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	1,550	10	10
今回修正予想(B)	1,248	66	1,221
増減額(B-A)	302	76	1,231
増減率	19.5		
前期(平成17年3月期中間)実績	1,476	30	115

#### (2) 連結業績

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	1,700	25	25
今回修正予想(B)	1,367	82	304
増減額(B-A)	333	107	329
増減率	19.6		
前期(平成17年3月期中間)実績	1,821	49	169

(3) 修正の理由

個別

売上高

当中間期の売上高につきましては、主力の時計バンド部門において海外大手メーカーからの受注は順調に推移し売上計画比 62 百万円増でありましたが、国内大手メーカーからの受注は前期からの生産調整が継続され、受注は伸び悩み売上計画を 210 百万円下回りました。一方、電子辞書外装部品は生産は安定化し計画を 10 百万円上回る売上貢献がありました。

メガネフレーム部門は、海外大手メーカーからの受注増はあるものの、国内大手メーカーの国内生産への戦略転換の影響及び中国メーカーの低コスト攻勢による受注減等により売上計画を 155 百万円下回り大幅な減収となりました。

応用品部門は、静電気除去器の主要販売先である半導体業界の不況により生産調整を余儀なくされ、下期へ売上計上がずれ込み売上計画を 64 百万円下回りました。

以上の結果、売上高は 1,248 百万円となる見込みであります。

経常利益

上記の売上高減少に加えて、国内大手時計メーカーからの受注分のコストダウン要請に伴う粗利率ダウン、メガネフレーム部門の競合激化に伴う粗利率ダウン等により、売上総利益が計画を大幅に下回りました。販売費・一般管理費は計画内に抑えたものの売上総利益の不足をカバーできず、経常損失は 66 百万円となる見込みであります。

特別損失、中間純利益

経常損失の増加と前記の特別損失 1,122 百万円の計上等によって、中間純損失が 1,221 百万円となる見込みであります。

連結

主に個別業績予想数値の修正に伴うものであります。

3. 平成 18 年 3 月期 通期業績予想数値の修正(平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)

(1) 個別業績

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	3,300	60	36
今回修正予想(B)	2,700	70	1,200
増減額(B-A)	600	130	1,236
増減率(%)	18.2		
前期(平成 17 年 3 月期)実績	3,083	17	34

(2) 連結業績

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	3,600	120	96
今回発表予想(B)	2,900	140	370
増減額(B-A)	700	260	466
増減率(%)	19.4		
前期(平成 17 年 3 月期)実績	3,487	17	116

(3) 修正の理由

通期業績につきましては、時計バンド部門は、高収益部門である海外大手メーカーからの受注は引き続き安定しており収益貢献が期待できますが、国内大手メーカー向けは引き続き生産調整の影響下にあり、新規受注の早期取り込みへの積極提案中ではありますが当下半年における売上回復は厳しい状況にあります。一方電子辞書外装部品は需要期を迎え増産体制に入ります。

メガネフレーム部門は、海外大手メーカーからは品質等評価され受注増が期待できますが、他メーカーからの受注は、激しいコスト競争下 採算性重視の受注に努めます。

応用品部門は、遅れておりました静電気除去器の納品が当下半年から再開され業績貢献が期待でき

ます。

加えて、低収益部門の人員削減等販管費の一層の圧縮を行い利益確保に努めます。

以上の結果、当下半期での業績は採算性の改善に努めますが売上高・経常利益とも中間期の損失の挽回は見込めず、通期業績につきましては、個別売上高 2,700 百万円、個別経常損失 70 百万円、個別当期純損失 1,200 百万円、連結売上高 2,900 百万円、連結経常損失 140 百万円、連結当期純損失 370 百万円となる見込みであります。

#### 4. 配当予想の修正について

(1) 配当予想の修正の理由

平成 18 年 3 月期の配当につきましては、当初年間 10 円(中間配当 0 円、期末配当 10 円)の配当を予定しておりましたが、上記の業績状況に鑑み、誠に遺憾ながら、本日開催の取締役会にて平成 18 年 3 月期の期末配当につきましては、これを無配とする旨決議いたしました。株主の皆様には誠に申し訳なく存する次第であります。早期の業績回復を図ってまいり所存でありますので、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

(2) 修正の内容

	中 間 期	期 末	年 間
前 回 予 想(平成 17 年 5 月 27 日)	0 円 00 銭	10 円 00 銭	10 円 00 銭
今 回 修 正 予 想	0 円 00 銭	0 円 00 銭	0 円 00 銭
(ご参考)前期の 1 株当たり配当金実績)	0 円 00 銭	10 円 00 銭	10 円 00 銭

【注】 上記の業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報から合理的と思われる判断に基づき作成したものであり、実際の業績は上記の業績予想と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

以 上